

シンガポール知的財産庁、2015年の特許に関する統計情報を公表

2016年7月13日

ジェトロ・バンコク事務所

シンガポール知的財産庁（IPOS）は、6月、同庁ウェブサイト上にて2015年の特許に関する統計情報の最終版を公表したⁱ。当統計情報は、2014年のものと同様に解説画像をもちいてシンガポールの特許に関する統計を視覚的に示すというもの。解説画像の抄訳は以下の通り。

■ 8か国がシンガポールを管轄国際調査機関（ISA）及び管轄国際予備審査機関（IPEA）として指定（8カ国は、日本、ブルネイ、インドネシア、ラオス、タイ、ベトナム、アメリカ、メキシコ）。シンガポールは9月1日からISA及びIPEAとして業務を開始し、9月1日～12月31日までの間に113件のPCT出願を受領。

■ 合計出願数は4.9%増加の10814件。在シンガポール出願人による出願件数は12.7%増加して1469件。審査請求（S&E Request）から最初のオフィスアクションまでの期間は6.7か月。

■ 出願人国別上位5か国は、1位はアメリカ（3817件：35.3%）ⁱⁱ、2位が日本（1674件：15.5%）ⁱⁱⁱ、3位がシンガポール（1469件：13.6%）、4位がドイツ（539件：5.0%）、5位がスイス（487件：4.5%）。

■ 技術分野の上位5分野は、1位製薬（10.4%：昨年2位）、2位有機ファイン化学（10.1%：昨年1位）、3位バイオ（8.8%：昨年3位）、4位コンピュータ技術（5.3%：昨年8位）、5位医療技術（5.1%：昨年6位）。新たな関心分野としては運転補助、3D金属印刷が挙げられる。

■ 出願人は、シンガポール科学技術研究庁（347件）、南洋理工大学（127件）、ハリバートン（120件）、シンガポール国立大学（82件）などが出願件数トップ10に入った。

（高田元樹・澤井容子）

ⁱ IPOS 該当記事掲載ウェブサイト

<https://www.ipos.gov.sg/Portals/0/about%20IP/Patents/Infographic%20Singapore%20Patent%20Statistics%202015.pdf>

ⁱⁱ 米国からの出願は2014年が3645件であることから前年比4.7%の伸び。

ⁱⁱⁱ 日本からの出願は2014年が1424件であることから前年比17.5%の伸び。

本内容は、日本貿易振興機構が2016年6月入手している情報に基づくものであり、その後の法律改正などによって変わる場合があります。また、掲載した情報・コメントは当該機構の判断によるものですが、一般的な情報・解釈がこの通りであることを保証するものではないことを予めお断りします。